

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット花)

事業所番号	2774600726		
法人名	株式会社 カムネスライフ		
事業所名	グループホームここから柏原		
所在地	柏原市堂島町2番14号		
自己評価作成日	平成30年5月15日	評価結果市町村受理日	平成30年6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成30年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共用型ディサービス・短期入所生活介護を運営し馴染みのある人・環境で安心して入居をして頂けるように努めている。カフェを開催し地域の方との交流を図り、入居者の方も活躍できる場を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の理念は【「ご入居者様」「ご家族様」「地域の皆様」と「職員」が「ここ」でつながり「ここ」で支えあえるホームに取り組んでいます】と謳っている。管理者はこの理念を達成するためには、職員の資質を高め、気持ちを揃えて、全員が力を合わせて励むことが必要と考えている。日常介護にあたるのも職員の自主性を重視し、共に考える管理に徹している。レベルアップのための研修には環境を整え、家族会を通じて心の交流に努め、事業所でカフェを開設、広く地域に開放し、ホスト役を利用者が勤めながら交流を深めている。管理者と職員、利用者、家族との信頼関係も厚く、地域からも頼りにされる存在となりつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前は朝礼で理念を唱和し共有できるように努めていたが現在は実施が出来ていないので再開を行い。共有が出来るように努めたい。	【「ご入居者様」「ご家族様」「地域の皆様」と職員が「こころ」でつながり「こころ」でささえあえるホームに取り組んでいます】。を事業所の理念として職員一同「こころ」を共有し、実現に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩や買い物、毎月のカフェで地域の方と繋がりを持てるように行っている	自治会に加入し、地域行事の地蔵盆に参加したり、高校生の介護実習を受け入れ、週2～3回は朝の食材を購入しに利用者と一緒に近くの店に出かけ、挨拶を交わしている。事業所では、月1回カフェを開き地域に開放している。この時は利用者がホスト役を務め地域の一員として交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カフェを開催し認知症の方の理解を得れる様にまた、介護等の相談を気軽にしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催をしている。	会議は2カ月毎に市職員、地域包括支援センター職員、家族、地域住民、の参加を得て開催。事業所から2名参加し活動報告、介護保険環境等の説明をし、参加者の意見を聞くことにしている。開催日の関係で、自治会長の参加が難しく、参加者からの意見も少ない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	柏原市地域密着型サービス事業所連絡会への参加や運営推進会議・カフェに参加をしていたいただき協力をして頂いている。	生活保護を受けている利用者もあり、担当部署へ毎月訪問、報告をし、助言も受けている。市の地域密着型事業所連絡会には毎回参加し協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設玄関は施錠しているがその他は施錠を行わずに自由に行き来が出来るようにしている。	身体拘束をしない介護に徹している。職員は概ね具体的な行為を理解し、身体拘束廃止委員会を設け、指導研修を行っている。リーダー、計画作成担当が常に指導し注意もしている。玄関は利用者の安全と、侵入者防止のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修の実施。事故に関するカンファレンスを行い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書・重要事項説明書をお渡ししている。不明な点については随時、お聞きしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置しています。また、普段の面会時にご家族からお話をお聞きし反映が出来るように努めています。	利用者の意向は、日常生活の中で話し合い、態度仕草から把握している。家族とは、家族会、運営推進会議後に話し合い、それらを運営に反映させている。また面会時には管理者、担当者が普段の様子を伝え、希望を聴きとっている。利用者の状態は2カ月毎に手紙で送り、伝えている。	2カ月毎に送る手紙に利用者のホームでの生活ぶりを撮った写真なども一緒に添え、利用者の日常を共有できる工夫を望む。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・計画作成者が中心となり、業務に反映が出来るように努めています。	月1回各フロア毎にリーダーが会議を持ち職員意見を聞いている。その他事故カンファレンス、ケアプランカンファレンス、サービス担当者会議を随時開催し、その中で職員と話し合い意見提案なども聞きとり運営に反映させている。管理者と職員とは自由に話し合える良好な関係にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きながら介護福祉士を習得している職員も多く、今まで以上に向上心を持って働けるように努めて行かないと感じています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に努めています。施設内研修の充実を図りスキルアップが図れるように今年度は計画を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お祭りに近くの事業所の方に参加をして頂くなどネットワークづくりに努めています。勉強会等が行えるように努めていきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面接でご家族・ご本人からお話をお聞きしています。入居をされてからはお話や表情を汲み取り、安心してホームでの生活が送っていただけるように支援に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や迷い、悩みをお聞きし、安心していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にお話をお聞きし、他施設や在宅のサービスを紹介させていただく事があります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、一緒に出来る事は一緒に行くなど暮らしを共にする関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に普段の様子を報告し、ご家族の意向をお聞きし共に支援が出来るように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の散歩や買い物へ出掛けています。ご近所の方・知人の方の面会時に居心地良く過ごして頂けるように心配りをし、関係が途切れない様に支援を行っています。	訪問してくれる馴染みの人もお互い高齢化して回数は減っているが、外出を兼ねた買物時に、馴染みの店や友人知己に会える。また月1回事業所で開くカフェに来てくれる友人もあり、新しい関係も含め、途切れることなく継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士、顔馴染みの関係で支え合い過ごされています。入居されて間のない方へは職員が配慮し馴染めるように工夫・気配りをし支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設側からは十分に行う事は出来ていませんが近隣でお会いした時には経過をお聞きし支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や会話の中で希望や意向を汲み取り、困難な方に対してもそれまでの関わりの中からやご家族の方へお聞きし把握が出来るように努めています。	日々の生活の中で、本人の意向を確認し、又入居時のフェースシートや家族の意見を聴きながら意向に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方へ適時、お聞きし把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的、日常生活においても有する力を把握し支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを実施し、意見を反映してケアプランを作成しています。	通常3か月で、月1回のモニタリングを基に計画を見直す。変化がない時は6か月毎とし、介護スタッフ、計画作成担当、家族、看護記録を基に現状に即した新しい計画を作成する。家族が同席できない時は電話等で話合う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録やケアプラン実施表、ケアチェック表などの記録をモニタリングに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院のお手伝いや訪問歯科、訪問看護などご本人・ご家族の状況を把握し、柔軟に対応が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の散歩や買い物へ出掛けています。カフェでは近隣の方が来られた時には接待をしてもらいきいきと参加をされています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には往診をご利用いただいています。また、入居をされてからも引き続き受診が必要な場合の時等は受診の支援を行っています。	殆どの利用者は協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意し、月2回の往診を受けている。歯科医は毎週。従来からのかかりつけ医を希望される場合は、家族、又は事業所で対応する。いずれの場合も医師との連携を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護や時には電話で報告し、適切な受診や看護を受けられるように支援に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には立ち会いを行い。主治医から退院の許可が下りた場合、ご本人・ご家族の方が負担の軽減が図れるように早々に対応を行っています。その際は病院へ面談に向かい情報収集に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族の意向を確認させて頂いています。また、重度化になられた場合は主治医とご家族・事業所と話し合いを行い、意向・方針について共有をしています。	入居時に重度化した場合における対応および看取りに関する指針を示し、希望により事業所で対応できることを説明、その後、かかりつけ医が重度化と判断した時、改めて本人、家族と話し合い、希望に沿って最善の対応を決定し、同意書を交わす。全職員もこれを共有して体制を整える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力が得られる様に努める必要があります。	年2回避難訓練を行い、1回は消防署立ち合いで指導も受ける。消火設備完備、備蓄もある。夜間職員の少ない時は、近隣在住の職員の電話による緊急出動の用意はある。訓練は行っていない。近隣住民の緊急時の応援依頼は今後の課題である。	何時起こるか分からない災害には不断の備えが必要である。発生時に狼狽えることなく利用者を安全に避難できるように、訓練を重ねることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時の声のかけ方や他の方には見えないように配慮が出来るように心掛けている。	職員は利用者に対し、声掛けや対応に人格を尊重し、押れすぎにならないよう、また排泄時の羞恥心に配慮している。個人情報の管理は適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉に出来ない方や我慢をされている方にも表情を汲み取り支援が出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先せずにお一人ひとりのペースに合わせて生活が送れるように職員は努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには心配りをし支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・食器洗いなど出来ることをお手伝いをして頂いています。	業者から配送される食材を調理係が一括して調理し、各ユニットに配られ、それぞれ盛り付けている。利用者もできることを参加している。職員の誰かは検食を兼ねて、介助もしながら同じものを一緒に食べている。月1回は全員で外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に応じた形態を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じて介助を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを把握し事前にトイレ誘導は出来てはいません。尿漏れがある方に対してすぐにリハビリパンツやパットをしようすることはせずにトイレへの声かけを行い支援を行っています。	基本的にはできるだけトイレでの自立排泄を支援しているが、早目誘導は行っていない。昼夜とも排泄記録では失禁が多い。排泄リズムの把握と、失禁を減らすことについて検討するとしている。	利用者ごとの排泄リズムを把握し、漏らす前にトイレに誘導し自立排泄を支援することが望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分を摂っていたくように声をお掛けしています。また、下剤を服用しなければいけない時には入居者様の負担にならないように服用される量・時間に配慮をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴曜日を固定せず、ご本人の気持ちや体調に合わせて入浴をして頂いています。	入浴は週3回を基本とし、時間・曜日は固定していない。浴槽はゆったりと体を伸ばして入れるタイプで、重症者には2人介助で支援している。拒否する利用者には時間、日、担当を変える等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お布団や自宅で使用されていたベットを使用されている方がおられます。自らお部屋に戻られ臥床される方、ご様子を見て職員が声をお掛けし、臥床していただくように支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬などについて注意点を申し送り時に職員へ説明を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	。お肉が苦手な方には魚料理を提供。洗濯たたみや調理など日々の役割を持って頂いていきいきと生活を送って頂けるように支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や買い物へ出掛けたり、自宅で習慣をされていた外出へも入居をされてからも継続的にご家族と出掛けておられます。	天気が良く、時候も良い時には近くの公園や、買い物を兼ねた散歩を支援している。また、家族の協力を得て利用者の希望に沿った外出をしている。本部の車を使って花見や、神社、仏閣などへの遠足に外食や、弁当持参のこともある。車いすでの外出は、少なくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心される方には少しのお金を持って頂いています。買い物へ行き支払いをお願いする事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ちこんで頂いています。ご家族などに電話をされる時間には配慮をしております。希望があれば施設からも電話をして頂けます。手紙がかけるように支援が出来ればと思います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花を飾ったり、入居者様が作られた物を飾ったりと季節を感じて頂けるようにしています。	食堂兼リビングは温湿度が適切に管理され、広い窓から外の景色も見えるゆったりとした空間である。階段を使って別のフロアへ自由に行き来もできる。花や絵画を飾り、ソファが置かれて、テレビを見ながらの団欒にも良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人ひとりで座りたい・落ち着く席やソファで過ごされたり、一人で過ごしたい時には居室へ戻り過ごされています。また、独りになれる事やトラブルになるなち感じた時には職員が気配りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ってきて頂いています。また、居室には家族様の写真を飾ったりと居心地良く過ごして頂けるように配慮をしています。	クローゼット、カーテン、ナースコール、エアコン、照明器が設置され、各部屋ごとに違った暖簾が懸けられている。家具、調度品などは各自の使い慣れたものを持参し、従来からの生活の継続感もあり、落ち着いて過ごしやすいと設えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が安全に自由に行動が出来るように2階ユニット玄関にチャイムを設置する等を行い職員の見守りで安心していただけるように支援を行っている		